

# 枚方消防署の耐震診断の結果と対応について

その他

## 経緯・耐震診断方法

枚方署の職員から、大型車両が庁舎の付近を通った際などに振動があり、建物構造に不安を感じている旨報告があったことから、令和5年度に耐震診断を実施。

耐震診断の方法は、**2次診断法**（対象建物の柱・壁の断面積に加え、鉄筋の影響も考慮し、構造耐震指標を評価するもの）とする。

**2次診断法**では、コンクリート性状検査のため、事前にコンクリートのコア抜きを実施するとともに建物の劣化指数等を計算ソフトに入力し、耐震診断に必要な数値を導き出した。

## 診断結果

階数	X方向 (正)	X方向 (負)	階数	Y方向 (正)	Y方向 (負)
5	<b>0.52</b>	0.59	5	0.88	0.86
4	0.75	0.82	4	0.69	0.73
3	0.72	0.78	3	0.60	0.63
2	1.03	1.08	2	0.59	0.68
M2	<b>0.51</b>	<b>0.53</b>	M2	0.87	0.86
1	0.57	0.67	1	0.65	0.66

## 業者の見解

### X方向（南北方向）

1階、M2階及び5階でIS値0.6を下回ったため、当該階は耐震性に「疑問あり」となるが、2階から4階は安全といえる。

### Y方向（東西方向）

2階でIS値0.6を下回ったため、2階は耐震性に「疑問あり」となるが、2階以外は安全といえる。

※安全=想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していること

**IS値0.6以上を確保するには1階の工事を行う必要がある。**

## 枚方消防署の耐震計画に係る考え方

平成10年及び平成17年に耐震診断を実施し、平成17年には補強計画を策定、**平成19年に耐震改修工事が実施**されている。

平成19年の耐震工事の際、本来であれば、災害活動拠点となる建築物については、耐震性能を数値化した**IS値が0.9以上とすることが望ましい**が、当時から建て替えを見据えていた、また、**IS値0.9を目指す**とすると**1階ガレージの開口部を塞ぐこととなり現場出動に支障をきたす等の理由**で、本消防組合の消防所の耐震補強にあたっての目標基準については、**IS値0.6以上**とすることとされた。

## 震度階級と構造耐震指標の関係

気象庁震度階級	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		
地震加速度 (gal)	0	50	100	150	200	250	300	350	400
構造耐震指標 (Is)		0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8

※耐震診断基準におけるIS値=0.6以上についての安全性とは、「地震の振動及び衝撃に対し、倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」と評価されるものとなっている。

## 消防組合の対応

将来的に枚方消防署の建て替えが予定されている状況で大規模な耐震補強工事を実施するには多額の経費と時間を要する（設計1年、施工1年程度）。また、工事期間中には車庫が使用できない可能性があり、消防機能を維持することが困難となります。

本消防組合の対応として、特に耐震性に「**疑問あり**」とされる中2階及び5階を使用禁止・制限をかけることとします。